



WEEKLY REPORT OF FUKUSHIMA ROTARY CLUB

福島ロータリー・クラブ会報

<http://www.fukushima-rotary.com/> E-mail:f-rotary@guitar.ocn.ne.jp


例会日 ■ 2009年3月26日(木)

会 場 ■ ホテル「辰巳屋」8F 開会点鐘 ■ 18:30 **Vol.35**

— 創立記念夜間例会 —

を考慮しておく必要があります。

今夜の創立記念例会には、子、あるいは孫クラブの方はお呼びしていませんが、1959年入会の金子会員に設立当時のお話と、今井会員のその後の思い出話をさせていただきます。今日ご出席いただいたOB会員の方々と交えて懐かしい話に親睦を深めてくださるようお願い致します。

2年後の60周年記念日は盛会に催されますよう準備委員会を作りつつあるところです。



会長挨拶

2008～09年度 会長

阿部 力哉

福島 RC 創立記念

今日は福島 RC 創立記念夜間例会で、OB 会員の方々にご出席いただき有難うございました。

そもそも日本の RC は 1921 年(大正 10 年)4 月 1 日に東京 RC が米山梅吉氏を初代会長として設立され、1923 年 2 月 10 日に大阪 RC が設立されました。

その後続々と日本各地のみならず旧満州にも、クラブの設立が急速に進みました。しかし、第 2 次世界大戦を前にして 1940 年頃から解散を余儀なくされ、RC の名を各曜会と名を換えて例会の継続を図ったところもありましたが、戦争中には殆ど壊滅状態となりました。終戦後、食べるものも満足にない混乱期だった 1949 年(昭和 24 年)に東京 RC の復帰が認められ、その後次々と復帰し、仙台 RC が 1950 年 1 月 30 日に復帰しました。この仙台 RC をスポンサークラブとして、1951 年(昭和 26 年)3 月 23 日に福島クラブが RI の認証を得て創立されました。この年は私が大学に入学した年で、衣食住ともまだまだ不足の復興期でした。

以来今年で 58 年経ちました。設立時のメンバーは 32 人で、初代会長は岩永幾太郎氏で 3 年間会長を継続し、その後が金子会員の御祖父君金子與佐氏でした。その後会員数は年々増加し、私が入会した 1998 年には会員数が 100 人を超えていました。現在まで在籍した会員の延べ人数は不明ですが、この間、地区ガバナーとして村上正徳氏、大原嘗一郎氏、田中善六氏、阿久津肇氏の 4 人のガバナーと、分区代理の 7 人と、名称が変わったガバナー補佐 1 人を加えた 8 名が出ております。現在では福島市内は勿論のことクラブ数が増えていますので、これまでのように地区役員の出る頻度は少なくなるとは思いますが、将来を見据えた展望なり計画なり

お客様並びに来訪ロータリアン紹介



元福島 RC 会員

林 一重 様 浦部 博 様 高橋慎吉 様 梅宮勇造 様

プログラム

- 開会点鐘 阿部力哉 会長
- ロータリーソング「福島ロータリー・クラブの歌」
ソングリーダー 菅野 晋 会員
- お客様並びに来訪ロータリアン紹介
- 会長挨拶 阿部力哉 会長
- 退会挨拶 野村證券福島支店長 石橋純治 会員
- 創立記念スピーチ 金子與志雄 会員
今井吉之 会員
- 幹事報告 安藤健次郎 幹事
- 閉会点鐘 阿部力哉 会長

懇親会プログラム

司 会

親睦・ロータリー家族小委員会 佐藤武彦 会員

- あいさつ・乾杯 阿久津肇 バストガバナー
- 懇 親
- 「手に手つないで」
- 閉会のことば 茂田士郎 副会長

SONG
LEADER

ソングリーダー

菅野 晋 会員





創立記念スピーチ



ロータリー歴 満 50 年の懐古

金子與志雄 会員

創立58周年記念例会に創立記念スピーチを阿部会長に命ぜられました。大役の白羽の矢がなぜ私に立ったのか。

ロータリー歴が一番古いからとのこと。入会しまして満50年になる。この間を懐古します。

創立8年目に入会、そして50年、今年が創立58周年。

1、ロータリー記念誌は10年節目で作られており、最初の記念誌は「10年の懐古」と銘打っております。その当時の会員名簿にまだ童顔でありました写真が載っております。(入会時は28歳の最年少会員でありました)

入会のきっかけは10周年の式典行事等の要員としてその時に3名が入会した。

①坪井孝夫さん…北クラブ設立のキーマンとして転出。

②織田正吉さん…かの高名な織田大蔵様の長男、後に退会。

③金子與志雄…当時28歳、そして50年在籍。

48年前発行のロータリー・クラブ創立10周年記念誌、「10年の懐古」の67名の方々の写真を見てお元気な方々は？ 医大教授の本多憲児先生がお元気じゃないかというお話があります。が、確認しておりません。不明です。

確実にお元気な人がおります。私、金子與志雄唯一人。生き残っている化石生物、まるでシーラカンスのような存在の感じがします。

2、このように長いロータリー歴から筆舌に尽くせない色々なことを教えて頂きました。

3、最高の教えは「4つのテスト」です。「4つのテスト」とは4つの教え、4つの戒めであり、私の人生観を形成し、個人、事業、社会生活行動の軌範になっていると感じている昨今です。

4、職業奉仕の思想

職業を通じて社会に奉仕せよ、社会の為になるやり方で経営にあたる。これはロータリー・クラブの独特の思想であり、私が50年間も継続できた由縁です。

5、福島ロータリー・クラブの他に誇りとすべきこと

(1) ガバナーはクラブの象徴である。ガバナー4名も輩出している(県内最多)。ガバナーの存在はそのクラブの歴史、レベルの高さ、実力を示す。【村上正徳先生、大原菅一郎先生、田中善六先生、阿久津肇先生】

福島クラブからガバナーの火を消してはならないと存じます。レベルの高さを物語るもの。次いでガバナーが誕生されることをお祈りします。

(2) 東京例会…在京旧福島ロータリー・クラブ会員との交流会、第1回／昭和52年6月18日、グランドパレスにて開催。爾来32回。記念誌2回発刊。現在中央からの転勤者会員の方は15名おられます。30名近い方々がおられた時もありました。この方々には重要な多忙な社務の中にありながらロータリー・クラブの運営にもご尽力を頂いて来ております。東京例会が長く続くことを祈ります。

6、誕生祝の歌

元知事松平勇雄先生のロータリー・クラブ(東京西ロータリー・クラブ)で歌っているとのこと、カセットテープを頂き、当クラブに紹介された。歌手の藤山一郎先生(東京西ロータリー・クラブ会員／1976年会長)が作られたと聞いております。

7、ロータリー例会を拙宅にて3回開催しております。【りんご・桃・祭礼】

8、ロータリー・クラブに兄弟5人で同時に在籍したことがありました。

結びとして

28歳5ヶ月で入会、以降入会者は私より年長先輩の方々ばかり、最年少者の期間は6年6ヶ月です。この名誉ある最年少の座を奪ったのはどなたでしょう？

3歳年若の今井先生でありました。この今井先生に Speaker のバトンタッチし、Speech を終わります。今井先生、お手柔らかにお願い致します。



福島 RC の誕生

今井 吉之 会員

1、戦前の福島RC設立の動き

郡山RCが昭和11年創立された。初代会長は橋本万右衛門氏(橋本合名会社社長、貴族院議員)である。先代の橋本万右衛門氏は郡山の政財界の中心人物(橋本銀行頭取、貴族院議員)であった。

郡山RCに福島の大原病院院長大原八郎博士(大原光雄会員の父)が入会した。大原博士は週1回(水曜日)、郡山の太田病院に出張診療をしていた。太田三郎院長から郡山RCに入会するよう勧められ、診察日をRC例会日の金曜日に変更して入会した。

大原博士は昭和14年、ニューヨークの第3回国際微生物学会に招かれて、「野兎病の研究」を講演し、ニューヨークRCや学会のロータリアンから歓迎された。

郡山RC内では大原博士を特別代表として福島にRCを設立しようとの話が持ち上がった。しかし当時、郡山経済界と福島経済界は仲が悪かった。それは郡山の橋本銀行が福島財界の雄であった吉野周太郎氏(貴族院議員／昭和12年没)の第百七銀行と対抗競争し、金融恐慌にもまきこまれて、昭和4年、百七銀行が倒産したため、橋本財閥が吉野財閥を没落させたといわれた。(橋本銀行は昭和5年に休業)

そこで橋本氏を中心とする郡山RCとしては、福島の財界人にRC設立を呼びかけにくかったとのことである。以上は故大原菅一郎先生と郡山RCの創立会員である遠藤安一郎氏からの話である。

2、福島RCの創立

福島RCの年次計画書には、福島RCの創立は昭和26年1月1日となっている。しかしこれは我が国の建国が2月11日であるのと同じくらい怪しい。

横田理一氏の話によると、仮クラブとしての例会は昭和25年の暮れから始めており、上町の福島電鉄ホール(現在のサンパレスの処)が例会会場であったそうで、ただ創立日をいつにするかとなったときに、阿部義次氏の発案で1月1日に決まったとのことである。

仙台RC40年史によると、「昭和26年3月11日福島仮RC発会式が行われ、仙台RCから6名出席した」と記録されている。

同年3月23日、福島RCは世界で7734番目、東北地方では郡山、仙台、盛岡、山形に次いで5番目のクラブとしてRIから加盟承認をうけた。当時は60地区、スポンサークラブは東京、仙台両RCでした。

東京RCは手島知健ガバナーのクラブで加盟承認申請書の作成をしてくれた。

仙台RCは秋保電鉄と福島電鉄、藤崎デパートと中合、河北新報と福島民報の関係でスポンサーになってくれた。

中合から横田氏、電鉄から北川氏が仙台RCに派遣されてロータリーの勉強をしてきた。例会にも出席させてもらった。

年次計画書には創立会員数が32名となっている。事務局に昭和26年5月現在の会員名簿があり、32名の会員名が記載されている（事務所・例会場中合デパート、例会日本曜日）。

ところが「ロータリー日本五十年史」によると、創立会員が29名となっている。どちらが正しいのか。

手続要覧を調べてみると、RCを結成するときは、RI理事会に加盟承認申請書を提出するが、同時に25名以上の創立会員名を記載した名簿も提出することになっている。RIの加盟承認が行われるまでは、この名簿に載っている以外に新たに会員を入会させることはできない。従って創立会員とは加盟申請書の一部である会員名簿に記載されている会員ということになる。

当クラブ事務局には加盟承認申請書の控えなどは残っていない。国際ロータリー日本支局に照合したが、なしの回答であった。

「ロータリー日本五十年史」編さんの資料を問い合わせたところ、ロータリー文庫にあるとのことで、平成3年に東京芝の「ロータリー文庫」を訪問した。係員に調べてもらったが、「五十年史」の編さんは昭和46年なので、その資料に何を使ったかは不明とのことでした。

ところがロータリー文庫に昭和26年4月現在のロータリー名簿が見つかった。これによると当クラブの会員は29名、事務局中合百貨店、例会場福島電鉄ホールとなっている。この29名がおそらく創立会員と思われる。

主な方々は、岩永幾太郎（初代会長、県医師会長）、金子与左（2代会長、金子会員の祖父）、安藤賢吾（中合専務、安藤義光会員の岳父）、下田与吉（電鉄専務、北RC下田会員の父）、小松謙一（県商工会議所2代会頭）、倉島久一（北RC倉島会員の祖父）、宮村義一（孫が第1回短期交換学生）、森岡清治（ホテル辰巳屋先代社長）、西形政次（西RC西形会員の父）、佐藤善一郎（県知事）、須藤仁郎（東邦銀行頭取）、鈴木文七（飯坂町長）、高橋水之助（高橋慎吉会員の父）、飛島定城（福島民報社長）、坪井万三（福島電鉄社長）の各氏である。

両会員名簿を比べてみると、創立会員29名の中、浅間久雄、中川与三郎の両名が退会し、阿部義次（弁護士）、浅井武司、

青木三郎、石堂恵之亮（花水館）、斎藤儀助（ツタヤ百貨店）の5氏が入会したことになる。

昭和26年5月20日付福島民報によると、「福島RC例会は、5月17日午後零時半から中合デパート会議室で開かれ、チャーターナイトの具体策を協議。会員は33名。」と報じられている。

事務局にある会員名簿の末尾にペン字で北川次男と書き込まれている。北川氏を含めて33名になったのであろうか。「20年の懐古」で西形政次氏が、「仮クラブが発足した当時、最年長は北川次男氏で、私が37才で最年少でした」と述べているので北川氏も会員になったようだ。北川氏は当時福島弁護士会長で、北川元会員の父である。

昭和26年6月2日福島RCの認証状伝達式が挙行された。式典は花園町の桜の聖母学院中学校講堂（プログラムではノートルダム修道院講堂となっているが前年に新装になった中学校講堂であったようだ）、晚餐会は飯坂花水館である。当日のプログラムに記載されている会員は32名である。昔はチャーターナイトの時の会員をチャーターメンバーと言ったこともあるそうだ。しかし実は阿部民友新聞社長が直前の5月30日急逝したので、チャーターナイトの時の会員は31名であった。

今は亡き下田与吉氏が次のように述べている（十年の懐古）。「本店を東京その他に持つ支店または工場が福島には沢山ある。支店長、工場長たる方々は福島に職場を持つ限りにおいては、まずその土地に親しみ、その地にとけ込んでお互いの事業発展を図り、住地のために少しでも役に立ちたいと考えるのは人情である。そうした気持ちから会合にはなるべく出席するよう心掛けるのではあるが、会議の目的たる事項については意見交換の機会をもつことができるが、新参者だからということでは他の話題にはとけ込むことができない。従って会合から遠ざかるようになってしまう。仕事を離れたところでなんでも話し合える場が欲しい。その切なる思いがロータリー・クラブ設立の大きなきっかけとなった。」

福島RCは創立当初から支店長、工場長さんのいわゆる転勤族の方（日銀、興銀、東北電力、NHK、日東紡、明治生命、日通）を受け入れ、親睦を深めると同時に互いに啓発し交流をして来た。

このよき伝統を今後も持ち続けていきたいものと思う。





幹事報告

安藤健次郎 幹事

例会変更のお知らせ

- 市内クラブ来週にかけての変更はありません。

新会員入会式



わたなべ せいいち
渡部 世一 様

福島民報社
代表取締役社長 編集主幹
紹介…白岩康夫 会員
生年月日：昭和17年11月23日
出身地：福島県田村郡小野町
主な経歴：
昭和40年3月 日本大学法学部卒業
同4月 福島民報社入社

編集局勤務 県政記者
編集局報道部長
平成 2年4月 編集局次長
5年3月 編集局長
7年3月 取締役編集局長
10年3月 取締役郡山総支社長
11年3月 常務取締役郡山総支社長
12年3月 会津若松支社長兼務
同3月 常務取締役郡山総支社長
郡山西RC在籍
13年3月 常務取締役 編集主幹
15年3月 専務取締役 編集主幹
印刷総括
16年3月 代表取締役副社長
17年3月 代表取締役社長
18年3月 現職

退会挨拶



野村證券福島支店 支店長

石橋 純治 会員

名古屋に転勤になりました。大変お世話になりました。ゴルフに登山、温泉に果物、日本酒と福島を大いに楽しませてもらいました。今後は福島の良さを発信させていくつもりです。

ありがとうございました。

4月例会プログラムのご案内

2日 ゲストスピーチ 浦部 博 様
(元会員・アドプロダクション・代表取締役)

*4月誕生祝い *4つのテスト唱和
*血圧測定 12:30~「辰巳屋」

9日→12日(日)に変更
「観桜ウォーキング例会」会費 1,000円

10:00 福島東稜高等学校駐車場に集合

13:00 「御山角屋」にて例会、昼食後解散

16日 地区協議会報告 12:30~「辰巳屋」

23日 「雑誌月間」にちなんで
雑誌小委員長 土屋敦雄 会員

12:30~「辰巳屋」

30日 会員スピーチ「私の職業⑦」

稲荷神社宮司 丹治正博 会員

12:30~「辰巳屋」

ニコニコBOX

佐藤 武彦 委員

阿部 力哉 会長

福島 RC の 58 周年創立記念例会です 今日の内々でのお祝いしますので、一層親睦の絆を深めていただきたいと思います。

白岩 康夫 会員

渡部世一福島民報社の入会、大歓迎です。

創立 50 周年に木下隆名誉会員の肝いりで参加した、RI 代 2580 地区のカンボジアでの地雷除去事業が明年 2 月をもって一応の終結をみ、現地で記念式典を行うとの連絡が入りました。

永澤 俊二 会員

WBC 世界制覇おめでとうございます。日本中が喜びに沸きました。株も上がったようです。

加藤 眞司 会員

石橋支店長 4 年間ご苦勞様でした。渡部会員の入会おめでとうございます。

金子会員、今井会員のスピーチを楽しみにしております。

渡部 世一 会員

お世話になります。

金子與志雄 会員

スピーカーを命じられ光栄です。

佐々木光政	山田信一郎	安藤健次郎
丹治 正博	江花 亮	加藤 義朋
村井 馨	児玉 健夫	安藤 静之
小林 仁一	佐藤 英典	八子 英器
佐藤 克三	渡邊 又夫	安藤 錬雄

3月26日(木) ニコニコBOX投入額
¥56,000/累計¥1,637,000

私のひと言

渡辺 健寿 会員



最近、何かと暗い話題の多い世情の中、WBC 日本代表の優勝は私たちに大きな感動をもたらしてくれました。それにしても、筋書きのないドラマと言いますが、シリーズ全体の経過も試合経過も各選手のプレーも本心に劇的なものだったと思います。そして、たかが野球といわれるかも知れませんが、多くの日本人が侍ジャパンの活躍に心を集めたところに国の愛する心が表れているのではないのでしょうか。

これからも、がんばれ日本!

今週号の編集長 大橋 広志 会員

事務所：福島市栄町 5 の 1 ホテル辰巳屋 7F TEL:024-524-1010 FAX:024-524-1011
例会日：木曜日 12:30 例会場：ホテル辰巳屋 8F TEL:024-522-5111

「文書」「写真」などの送付先：t-mashiko@fcp.co.jp (会報委員長)